

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論	栗栖 照雄	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

(講義概要)

- 1) 福祉活動の歴史と主要な思想・理論・概念を学習する。
- 2) 福祉と哲学を関連づける思想として、QOL、ノーマライゼーションなどの理論を学習する。
- 3) 福祉(ケースワーク)思想の基礎となる哲学的人間観をケア(care)の意味と様態から考察する。

(授業の目標)

【課題1】古代から現代に至る世界の福祉活動の歴史をたどり、そのつどの活動を動機づけた主要な思想・理論・概念を探究する。

【課題2】現代の代表的な福祉思想としてQOL、ノーマライゼーションなどの理論を取り上げ、その哲学的基礎を考察する。

【課題3】ケア(care)の意味と構造を理解し、福祉思想の基礎をなす人間観の全体をケアの意味と様態に従って構造化する。

到達目標 (SBOs)

【課題1の目標】福祉活動を動機づけた思想・理論・概念を修得し、それらを呼称する用語の意味領域を説明できる。

【課題2の目標】QOL、ノーマライゼーションなどの理論を考察し、その理論の中にある人間存在理解の哲学的基礎を説明できる。

【課題3の目標】現代英語のcareの意味領域と人間存在および人間関係の様態を重ね合わせて考察し、ケアの意味と構造に従って人間存在の全体を分析し構造化する。それによって、福祉活動(福祉の人間関係)が人間存在の本質構造から必然的に由来することを説明できる。

授業計画(レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト「社会福祉思想史入門」を参考にして、西欧の福祉活動と指導概念を理解し、その全体を歴史的文脈の中に位置づける。

第2回レポート課題

テキスト「介護福祉教育の方法と実践」を参考にして、福祉の基本概念と援助関係形成の方法論の特徴を理解するとともに、理論の中にある基礎的な人間理解に関して考察する。

第3回レポート課題

テキスト「ケアの本質」を参考にして、人間存在におけるケアの意義を学習するとともに、ケアする存在としての人間における福祉の必然性を理解する。

テキスト

- ①「社会福祉思想史入門」吉田久一他著、勁草書房
- ②「介護福祉教育の方法と実践」栗栖照雄編著他、角川書店
- ③「ケアの本質」ミルトン・メイヤロフ、田村 真訳、ゆみる書房

参考書・参考資料等

- ①「社会福祉の動向と課題」西尾祐吾他編著、中央法規出版
- ②「存在と時間」ハイデッガー著、細谷貞夫訳、ちくま学芸文庫
- ③「ソーシャルワーク実践への道」小関康之他編著、角川書店
- ④「社会福祉の歴史」ロバート・ブレムナー著、栗栖照雄他訳、相川書房
- ⑤「人生観の哲学」栗栖照雄他著、西日本法規出版(現・ふくろう出版)
- ⑥「ケースワークの原則」バイステック著、尾崎 新他訳、誠信書房

学生に対する評価

3回のレポートと科目修了試験の成績に基づいて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論	横山 裕	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

(講義概要)

- 1) 社会福祉の歴史と主要な人物の思想及び理論を学習する。
- 2) 福祉哲学の主要概念である基本的人権、ノーマライゼーション等について理論的背景を学習する。
- 3) 社会福祉の発展における宗教と経済のそれぞれの影響について考察する。

(授業の目標)

【課題1】古代から現代に至る世界の社会福祉の歴史をたどり、そのつどの活動を担った主要な思想家とその提唱した理論を探究する。

【課題2】現代の代表的な福祉思想として基本的人権、ノーマライゼーションなどの理論を取り上げ、その哲学的理論背景を考察する。

【課題3】社会福祉の発展に影響を与えた宗教及び経済について、歴史的及び地理的背景をふまえて明らかにする。

到達目標 (SBOs)

【課題1の目標】社会福祉上の主要な思想家を知り、彼らが提唱したそれぞれの理論を説明できる。

【課題2の目標】基本的人権、ノーマライゼーションなどの理論を考察し、その理論の中にある人間存在理解の哲学的基礎を説明できる。

【課題3の目標】福祉の定義が困難な理由として宗教及び経済的要素が影響していることを理解し、各種宗教及び経済学理論によって様々な社会福祉が発展してきた背景を説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト「社会福祉思想史入門」を参考にして、主にヨーロッパにおける福祉思想家を知り、ヨーロッパ通史上で理解する。

第2回レポート課題

テキスト「介護福祉教育の方法と実践」を参考にして、福祉の基本概念と援助関係形成の方法論への理解を通して理論の中にある基本的人権及びノーマライゼーションなどの価値概念に関して考察する。

第3回レポート課題

テキスト「社会福祉の原理と思想」を参考にして、社会福祉の発展における宗教及び経済との影響について考察する。

テキスト

- ①「社会福祉思想史入門」吉田久一他著、勁草書房
- ②「介護福祉教育の方法と実践」栗栖照雄編著他、角川書店
- ③「社会福祉の原理と思想」濱野一郎、遠藤興一、岩崎学術出版

参考書・参考資料等

- ①「社会福祉の動向と課題」西尾祐吾他編著、中央法規出版
- ②「キリスト教福祉実践の史的展開」杉山博昭著、大学教育出版
- ③「福祉文化論」一番ヶ瀬康子他編著、有斐閣ブックス
- ④「社会福祉の歴史」ロバート・ブレムナー著、栗栖照雄他訳、相川書房
- ⑤「人生観の哲学」栗栖照雄他著、西日本法規出版(現・ふくろう出版)
- ⑥「ケースワークの原則」バイステック著、尾崎 新他訳、誠信書房

学生に対する評価

3回のレポートと科目修了試験の成績に基づいて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論 I (行動療法論)	前田 直樹	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

近年、心理臨床の分野ではエビデンスベーストの行動療法、応用行動分析、認知行動療法が積極的に行われている。これらのアプローチを行うためには、その背景にある学習理論や行動理論を理解することが不可欠であり、同時に人間の心を科学的に理解するとはどういうことかについて改めて考えていく必要がある。これらのことを踏まえた上で、本科目では行動療法のアプローチが心理臨床の現場だけでなく、社会福祉の現場にどのように応用できるのかを考察する。

到達目標 (SBOs)

1. 臨床心理学の学派の違いについて理解する。
2. 学習理論の背景となるレスポナント条件づけ、オペラント条件づけ、モデリング学習について理解する。
3. 学習・行動理論から行動療法、行動分析への流れを説明できる。
4. 行動療法の主要な技法について理解する。
5. 行動理論や行動療法の技法を社会福祉の現場で応用することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

心理療法の3大潮流である精神分析、来談者中心法、行動療法の理論と技法について解説し、行動療法の特徴について考察する。(4000字程度)

第2回レポート課題

日本の社会的問題である不登校・引きこもりについて行動論的に解説し、これらの支援に対する行動療法的アプローチについて考察する。(4000字程度)

第3回レポート課題

行動療法を用いて社会的弱者の自立支援を行う場合、どのようなアプローチを行う必要があるかを考察する。(4000字程度)

テキスト

宮下照子・免田賢：新行動療法入門，ナカニシヤ出版
 腹巻繁・島宗理：対人支援の行動分析学，ふくろう出版
 ジェームズ・メイザー：メイザーの学習と行動，二弊社

参考書・参考資料等

杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・リチャードマロット・マリアマロット：行動分析学入門，産業図書
 杉山尚子：行動分析学入門，集英社
 山内光哉・春木豊：グラフィック学習心理学
 斎藤環：社会的ひきこもり 終わらない思春期，PHP 新書
 Nigel Blagg: School Phobia and Its Treatment, Croom Helm
 河合伊六・桜井久仁子：不登校，ナカニシヤ出版
 飯倉康郎：精神科臨床医おける行動療法，岩崎学術出版

学生に対する評価

3回のレポートの内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論 I (人間動物関係論)	加藤 謙介	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本科目では、『人間と動物の関係』の特徴・意義・課題について、特に福祉・心理・医療現場を中心に理解を深めることを目的としている。具体的には、関連文献の整理を通して、(1)『人間と動物の関係』に関する諸議論を理解する、(2)福祉・心理・医療現場における動物活用の意義と課題を理解する、ことを目指す。

到達目標 (SBOs)

1. 『人間と動物の関係』全般に関する議論の特徴について、文献をもとに理解・説明できる。
2. いわゆる「アニマル・セラピー」など、福祉・心理・医療現場における動物活用の特徴と課題について、文献をもとに理解・説明できる。
3. 福祉・心理・医療現場における『人間と動物の関係』の意義と課題について、文献内容をもとに考察できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

『参考書・参考資料等』に挙げた文献の中から「1つ」を選び、3000字程度で内容を『要約』するとともに、『理解できたこと』を約300字、『理解できなかったこと』を約300字で整理する。

第2回レポート課題

「CiNii」「J-STAGE」「Google Scholar」等の文献検索データベースを用いて、「人間の福祉・心理・医療的問題における『人と動物との関係』がテーマとなっている学術論文」を1本選び、3000字程度で内容を『要約』するとともに、『理解できたこと』を約300字、『理解できなかったこと』を約300字で整理する。

第3回レポート課題

第1回・第2回のレポート課題の内容を踏まえ、「福祉・心理・医療現場における『人間と動物の関係』の意義と課題」について、3600字程度で論じる。

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

- ・岩本隆茂・福井 至 (共編) (2001). アニマル・セラピーの理論と実際 培風館
- ・高柳友子・長谷川元・水越美奈・山崎恵子 (編) (2003). 医療と福祉のための動物介在療法 医歯薬出版株式会社
- ・桜井富士朗・長田久雄 (編著) (2003). 「人と動物の関係」の学び方：ヒューマン・アニマル・ボンド研究って何だろう インターズー
- ・奥野卓司・秋篠宮文仁 編 (2009). ヒトと動物の関係学：第1巻 動物観と表象 岩波書店
- ・秋篠宮文仁・林 良博 編 (2009). ヒトと動物の関係学：第2巻 家畜の文化 岩波書店
- ・森 裕司・奥野卓司 編 (2008). ヒトと動物の関係学：第3巻 ペットと社会 岩波書店
- ・池谷和信・林 良博 編 (2008). ヒトと動物の関係学：第4巻 野生と環境 岩波書店

学生に対する評価

3回のレポート課題、及び、最終試験(口頭試問)によって評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅱ（アダプテッド・スポーツ論）	正野 知基	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

厚生労働省が公表している体や心に障がいを持つ人の推計値は増加傾向にあり、社会や学校においても支援を必要としている人や子どもは身近な存在となってきた。しかし、この現状に対する理解は十分であるとは言い難い。どのような障がいがあっても、その人に合ったスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を整えることで、さまざまなチャレンジが可能となり、より豊かな社会的な交流の機会を持つことが期待できる。本講義では、手段としてのスポーツ・レクリエーションを活用するため、「アダプテッド」の意味について考察する。

到達目標 (SBOs)

1. スポーツ・レクリエーションにおけるアダプテッドとは何かについて理解し、説明できる。
2. スポーツ・レクリエーションにおける体や心に障がいを持つ人や子どもたちとの関わりの変遷および現状と課題について理解し、説明できる。
3. スポーツ・レクリエーションにおけるアダプテッドをテーマにした研究のあり方について理解し、説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

スポーツ・レクリエーションにおけるアダプテッドとは何かについて概説し、各自の考えをまとめなさい。

第2回レポート課題

スポーツ・レクリエーションにおける体や心に障がいを持つ人や子どもたちとの関わりの変遷および現状と課題について概説し、各自の考えをまとめなさい。

第3回レポート課題

スポーツ・レクリエーションにおけるアダプテッドをテーマにした研究のあり方について概説し、各自の考えをまとめなさい。

テキスト

教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学, 大修館書店

参考書・参考資料等

学生に対する評価

レポート課題 (60%)、最終試験 (40%) で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅲ（研究法・調査法）	三宮 基裕	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

【講義や研究の概要】

修士論文のための研究法・調査法の基礎を修得するために、研究の展開ならびに研究の骨格となるデータ収集のための調査法について学ぶ。

【一般目標 (GIO)】

主体的に研究活動が実践できるようになるために、研究の意義・研究者としての倫理を認識し、研究目的の設定・計画の立案・適切なデータの収集ができるようになる。また、得られたデータを客観的に分析・考察し、その成果を論理的に説明できるようになる。

到達目標 (SBOs)

1. 研究の意義、方法、研究者としての倫理について理解し、説明できる
2. 研究テーマに即した資料を適切な方法で収集できる
3. 調査・種類・実施方法・倫理の基本について理解し、説明できる
4. 量的研究および質的研究の特徴と手順について理解し、説明できる

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

研究の意義と方法、研究者としての倫理について概説する

テキスト・参考書等を参考にして、A4用紙2枚程度にまとめる

1ページあたりの文字数は40字×36行程度とする

1ページ目の1行目にタイトル、2行目に学生番号と氏名を記入する

第2回レポート課題

資料の収集、社会調査の目的・種類・実施方法、調査・研究における倫理について概説する。

レポートの体裁は第1回と同様とする

第3回レポート課題

量的研究・質的研究の特徴と手順について概説する。

レポートの体裁は第1回と同様とする

テキスト

研究の育て方 ゴールとプロセスの「見える化」, 近藤克則, 医学書院, 2018

社会調査の基礎 [第4版] - 社会調査 社会福祉調査, 福祉臨床シリーズ編集委員会 (編), 弘文堂, 2019

参考書・参考資料等

社会科学系大学院生のための研究の進め方: ダン レメニイ (著), 同文館出版, 2002

1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方 [第2版]: 神林博史, ミネルヴァ書房, 2019

大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる: 倉田博史, KADOKAWA, 2019

心理学マニュアル 質問紙法: 鎌倉雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 (編著), 北大路書房, 1998

よくわかる質的社会調査 プロセス編: 谷富夫・山本努 (編著), ミネルヴァ書房, 2010

学生に対する評価

レポート課題 (30%)、最終試験 (70%) で評価する。

最終試験は口頭試問とする。テーマは「修士論文についての研究方法」とし、資料を示しながら自身の修士論文研究 (予定でも構わない) についての研究計画ならびに方法を説明してもらう。

研究手法の選定、得られたデータの分析方法、研究倫理等、レポート課題で学んだ内容がどの程度活かされているかを評価の視点とし、研究内容は評価対象としない

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅳ（高齢者福祉論）	清水 径子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

学生は高齢者福祉を社会的特性、政策、ソーシャルワークの3面から総合的に理解する。

学生は、高齢者施策が明治期からどのように始まり 戦後 の生活保護法でどのように位置づけられたか、老人福祉法や各種社会保障分野における高齢者対策、そして介護保険法といった政策の内容と歴史的背景を理解した上で、高齢者の社会特性の一視点としての虐待を考察する。その後、相談援助技術の一つであるケアマネジメントについて検証し、わが国の介護保険に伴うケアマネジメントの展開について理解する。

到達目標（SBOs）

1. 学生は介護保険制度の理解はもちろんのこと、それまでの高齢者施策についても認識する。
2. 学生は高齢者虐待に関する先行研究を読み、多角的視点を持つ。
3. 学生はケアマネジメントについて介護保険に限定することなくソーシャルワークの一環としての捉え方をし、ソーシャルワークの近接領域についても理解する。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

介護保険制度の概要 厚生労働省老健局（インターネットにて公開）を読み、わが国の介護保険制度の概要をまとめ、あなたの意見を述べなさい。
（2400字～3600字）

第2回レポート課題

履修した学生には、「高齢者虐待」に関する先行研究を配布する。
配布された先行研究を読み、高齢者虐待における課題と取り組みについて論述しなさい。
（2400字程度）

第3回レポート課題

「ケアマネジメントの本質—生活支援のあり方と実践方法」を読み、ソーシャルワークとケアマネジメントについてまとめなさい。加えてわが国の介護保険法に導入し展開しているケアマネジメントの定義や考え方について比較し、わが国でケアマネジメントはどのように解釈され、どのような方向に展開していくのかを論述しなさい。
（2400字程度）

テキスト

1. 介護保険制度の概要 令和3年5月 厚生労働省老健局（インターネットにて各自確認すること）
（<https://www.mhlw.go.jp/content/000801559.pdf>）
2. 高齢者虐待に関する先行研究（別途配布）
3. 「ケアマネジメントの本質—生活支援のあり方と実践方法」 白澤政和 中央法規出版 2018年

参考書・参考資料等

1. 「高齢者虐待に挑む～発見、介入、予防の視点」 高齢者虐待防止研究会 中央法規出版 2006年
2. 「高齢者虐待—実態と防止策」 小林篤子 中公新書 2004年
3. 「高齢者虐待—日本の現状と課題」 多々良紀夫 中央法規 2001年

学生に対する評価

3回のレポート評価と筆記試験とする。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅴ（東洋介護福祉論）	渡邊 一平	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

我が国の疾病構造は、慢性疾患、心因性疾患、免疫遺伝学的疾患等にみられるように、複雑な因子が関与する疾病が急増している。このような疾病構造の中では、原因を特定し、排除するという既存の価値観とは違う角度から、健康や疾病を捉える必要があり、キュア (cure) よりもケア (care) が重要視される。このような背景の下、東洋医学を学習し理解することで、東洋思想をベースとした「アメニティ・ケア (amenity care)」を修得し、構築する。

到達目標 (SBOs)

1. 西洋医学、東洋医学の世界観、価値観、歴史的変遷、役割について説明できる。
2. 西洋医学と東洋医学の比較から、両者の違いについて考察できる。
3. 東洋医学・東洋哲学思想について認識し、整体概念（東洋医学の身体観、健康観、自然観など）について説明できる。
4. 東洋医学思想を基盤とした心身相互連関について説明でき、快適介護福祉について考察できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

西洋医学と東洋医学の違いについて、各々の価値観、歴史的変遷、役割の観点から概説する。

第2回レポート課題

東洋医学の基本概念である「気」および「陰陽」について学習し、東洋医学の身体観・健康観を考察する。

第3回レポート課題

東洋医学思想を基盤とした「こころと身体は不可分（心身一如）であると意識する」ことから「快適介護福祉（アメニティ・ケア；amenity care）」について考察する。

テキスト

1. 介護福祉教育の方法と実践 新しいケアワーカー像を求めて：栗栖照雄他. 角川書店. 978-4-04-651598-8. 2,000円
2. 養生の実技 一つよいカラダでなく一：五木寛之. 角川書店. 978-4-04-704163-9 . 686円
3. カラー図解 東洋医学 基本としくみ：仙頭正四郎. 西東社. 978-4-7916-1796-8. 1,500円

参考書・参考資料等

1. 東洋療法学校協会編：東洋医学概論. 医道の日本社
2. 石田秀美：気流れる身体. 平河出版
3. 仙頭正四郎：標準東洋医学. 金原出版

学生に対する評価

提出された3回のレポート内容、指摘箇所への回答、科目終了試験などにより総合的に判断する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論VI (地域福祉論)	平川 忠敏	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

個人の能力の改善や向上といった視点だけでなく、社会を個人に適応させ、個人と社会の両者の関係性の改善を図る、という視点に立つコミュニティアプローチを展開し、「地域で共に暮らす」ための理論を学び、実践を展開する。

到達目標 (SBOs)

個人の弱いところを見つけてそこを援助するだけでなく、地域社会福祉論であるから、地域環境を改善して、個人が住みやすいようにしていく。そのために、個人も地域も診断して、両者に治療的福祉的なアプローチを展開して、たとえばハンディキャップがあっても不自由しない、というような方法論を展開できるようになる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

セルフヘルプグループ、エンパワーメント、レジリエンスの概念を説明し、社会的弱者は、決して援助を必要とする存在ではなくて、もともと多くの力を持っている主体的な存在であることを、例を挙げて説明しなさい。

第2回レポート課題

文脈内人間、コミュニティ感覚、コミュニティアプローチの概念を説明しなさい。

第3回レポート課題

コミュニティアプローチの具体的な事例を二つ、雑誌や本から選び、報告・解説しなさい。

テキスト

1. 植村勝彦編著「コミュニティ心理学入門」ナカニシヤ出版
2. 植村勝彦他編著「よく分かるコミュニティ心理学」ミネルヴァ書房
3. 日本コミュニティ心理学会編「コミュニティ心理学ハンドブック」東京大学出版

参考書・参考資料等

1. 山本和郎 監訳 コミュニティ心理学—理論と実践—1997 ミネルヴァ書房
(Orford, J. Community Psychology : Theory and Practice John Wiley & Sons. 1992)
2. 山本和郎 著 コミュニティ心理学—地域臨床の理論と実践— 東京大学出版会 1986
3. 山本和郎 他編著 臨床・コミュニティ心理学 —臨床心理学的地域援助の基礎知識—
ミネルヴァ書房 2000
4. 箕口雅博 臨床心理地域援助特論 放送大学教育振興会 2007
5. 笹尾敏明 訳 コミュニティ心理学—個人とコミュニティを結ぶ実践人間科学— 金子書房 2007
(Dalton, J. H., Elias, M. J. & Wandersman, A. Community Psychology: Linking Individuals and Communities. Stamford, CT: Wadsworth)

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅶ（身体健康福祉論）	小川 芳徳	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

高齢者の増加とともに介護の問題が社会的な問題として指摘されています。そのため2000年に介護保険制度が施行され幾度となく改正を重ねています。福祉社会の実現のためには介護の予防という観点が重要となってきます。介護の予防には身体活動の維持・向上は欠かせません。高齢者が「体を動かす能力」を維持していくためには、日常的に身体活動ができる施設、設備、さらには運動を指導できる人材が必要となります。指導にあたってはからだを動かす仕組みやその効用を理解すること、さらには、それを福祉の施策に反映させることが大切です。

この科目では出生から死に至るまでの身体の生理的な変化を理解し、身体活動がそれぞれの年代でどのような影響を持つのかを学びます。身体活動の意味を理解したうえで、高齢者を対象にした運動指導の在り方を身に付けることを目的にします。

到達目標 (SBOs)

- ① 年齢(加齢)に伴う身体の生理的变化を理解する。
- ② 身体活動のしくみを理解し、説明できる。
- ③ 身体活動の効用を理解し、説明できる。
- ④ 運動を指導する際に注意すべき事項を理解し、説明できる。
- ⑤ 高齢者に対して運動を提示し、その意味を説明することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

出生から死に至るまでの身体の経年変化について生理学的な視点から述べてください。(①②)

第2回レポート課題

身体活動が生体に及ぼす影響について生理学的な面から説明してください。(②③)

第3回レポート課題

高齢者の身体的特性と身体活動との関わり方を、休養、栄養を含めて考察してください。(①②③④⑤)

テキスト

参考書・参考資料等

- ① 身体の発達と加齢の科学 (出版社：大修館書店)
- ② 加齢と運動の生理学 (出版社：朝倉書店)
- ③ シニアのためのスポーツ医学 (出版社：NAP)
- ④ 高齢者の生活機能増進法 (出版社：NAP)
- ⑤ 高齢者の解剖生理学 (出版社：秀和システム)

学生に対する評価

3回のレポートを提出・合格し、科目修了試験において総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅷ（施設経営論）	鬼崎 信好	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

(研究テーマ)

福祉サービスの提供組織が多様化してきている今日、それらの存在意義（独自性）を再確認する必要性が生じてきている。特に民間施設を運営する組織としての社会福祉法人が今後も必要であるか否かなどについて、明確な整理も必要となってきた。また、社会福祉法人以外の法人（医療法人、農協、生協、営利法人、NPO 法人等）が在宅サービスを中心に参入してきているので、これらの法人を巡る論点も整理をする必要がある。

(研究の流れ)

①社会福祉施設の把握、②社会福祉法人制度の意義、③社会福祉法人と社会福祉施設の関係、④社会福祉施設を巡る課題、⑤社会福祉法人以外の法人を巡る課題

到達目標 (SBOs)

(研究のポイント)

- ①社会福祉法人の枠組みなどについて全体的理解ができる。
- ②社会福祉法人を巡る論点の整理を各種の文献を通して整理できる。
- ③社会福祉法人以外の法人の相違点を理解し、法人ごとの可能性と限界を説明できる。

注1：課題のレポート作成は、単位取得のために記すのではなく、構築力や表現力を養うための勉強の機会と考えて取り組むことが重要である。

注2：レポート作成の積み重ねが、次のステップ（論文執筆）につながる。

注3：受講生から提出されたレポートを添削することによって、次のステップに進むことができるように努めたい。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

社会福祉施設の動向と課題を整理しなさい。

注：障害者総合支援法施行以降、障害者関係施設の枠組みが変わっていることを注意すること。

第2回レポート課題

社会福祉法人制度を巡る課題を整理しなさい。

注：社会福祉法改正に基づき、社会福祉法人の組織体制等が大きく変わっていることを踏まえること。

第3回レポート課題

福祉サービス提供組織の多様化を巡る課題を整理しなさい。

テキスト

1. 最新社会福祉士養成講座『福祉サービスの組織と経営』中央法規出版 2021年

参考書・参考資料等

1. 社会福祉法人経営研究会『社会福祉法人経営の現状と課題』全国社会福祉協議会、2006年
2. 鬼崎信好『高齢者介護サービス論』中央法規出版、2014年
3. 鬼崎信好編『コメディカルのための社会福祉概論(第2版)』講談社、2014年
4. 鬼崎信好編『四訂 社会福祉の理論と実際』中央法規出版、2007年
5. 鬼崎信好ほか編『世界の介護事情』中央法規出版、2002年
6. 鬼崎信好ほか編『介護保険キーワード事典』中央法規出版、2001年

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論Ⅸ（生活支援技術論）	清水 径子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本科目では、生活支援技術とは、主に施設等での高齢者や障害者への介護技術を指している。近年、施設や病院において利用者への虐待、職員の人手不足等が問題視されている。生活支援の場で起こる諸問題を認識し、利用者の生活の視点から支援方法を考察する。さらに、高齢者や障害者のもつ様々な特性を理解し、ICF（国際生活機能分類）の視点に基づき、利用者のニーズに合った支援を考えることにより、根拠のある介護について理解する。

到達目標 (SBOs)

- 1) 生活支援の場での介護者と利用者間で起こる諸問題を認識し、考察できる。
- 2) ICFの視点に基づき、生活支援を必要としている高齢者や障害者の特徴を理解できる。
- 3) 特徴を理解した上で、留意点をまとめることができる。
- 4) 利用者のよりよい生活を考えた支援方法を提案できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト①を読み、利用者の生活を支援する際の諸問題を挙げ、その原因を考察する。

第2回レポート課題

テキスト②③を読み、老化、疾患、障害などにより生活支援を必要としている利用者の特徴と留意点についてまとめる。

第3回レポート課題

テキスト①～③を参考に、ひとりの利用者の事例（後日配布）から、生活支援技術を考える。食事介助、排泄介助、入浴介助、移動介助等の生活支援場面の一つを選び、利用者の生活の質向上に向けてどのように支援をすべきか、提案する。なぜその支援を提供すべきか、根拠を説明すること。

テキスト

- ①介護の専門性とは何か 三好春樹 雲母書房
- ②ケア現場でいかせる介護アセスメントのきほんー考えかたがみえるわかる 稲田弘子 メディカ出版
- ③「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用ー目標指向的介護に立って 大川弥生 中央法規

参考書・参考資料等

- ・新版 介護基礎学ー高齢者自立支援の理論と実践 竹内孝仁 医歯薬出版
- ・医療は「生活」に出会えるか 竹内孝仁 医歯薬出版
- ・目標指向的介護の理論と実際ー本当のリハビリテーションとともに築く介護ー 大川弥生 中央法規

学生に対する評価

提出された3回のレポート内容、科目修了試験により総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論X（スクールソーシャルワーク論）	横山 裕	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

学習者が、社会福祉援助実践者として学校領域におけるソーシャルワーク活動であるスクールソーシャルワークそのものを理解する。具体的には、学習者がスクールソーシャルワークの歴史を理解し、現状でどのような問題がなぜ発生し、それに対してどのような取り組みがなされているのか理解する。

到達目標（SBOs）

学習者が、スクールソーシャルワークの淵源を理解できるようになる。また学校を活動起点としたソーシャルワークがどのような福祉の問題を対象とし、どのように解決に向けた展開がなされているのかを認識した上で、今日的課題に対応したスクールソーシャルワーク活動に取り組めるようになる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

スクールソーシャルワークの日本及び世界での淵源について述べて下さい。

第2回レポート課題

スクールソーシャルワークが対象とする福祉的課題とその解決に向けた展開について説明してください。

第3回レポート課題

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省）のデータを参考にしながら我が国におけるスクールソーシャルワークの今日的課題について考察して下さい。

テキスト

1. スクールソーシャルワーク論 日本スクールソーシャルワーク協会編 学苑社 9784761407100
2. 学校ソーシャルワーク演習 門田光司 他 ミネルヴァ書房 9784623056750
3. スクールソーシャルワーカー養成テキスト 日本学校ソーシャルワーク学会編中央法規 9784805830758

参考書・参考資料等

1. 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省ホームページ参照）
2. 「スクールソーシャルワーカー実践活動事例集」（文部科学省ホームページ参照）

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
社会福祉学特論XI (コミュニティソーシャルワーク論)	川崎 順子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

本科目では、地域を基盤としたソーシャルワークに求められる視座を理解し、特に地域福祉推進にかかわるソーシャルワークの課題を検討していく。そのために、コミュニティケア、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク等の理論と実践の枠組みを再整理し、コミュニティソーシャルワークの展開に向けた課題やあり方について理解する。

到達目標 (SBOs)

1. 日本における社会福祉の動向とソーシャルワーク理論と実践の現状について理解できる。
2. 地域を基盤としたソーシャルワークが求められる背景を明確にする。
3. コミュニティソーシャルワークの理論と実践に向けた考察ができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキスト「コミュニティケアの社会福祉学」を熟読し、①イギリスにおけるコミュニティケア政策の展開過程を要約し、日本における社会福祉の進展に影響を及ぼした内容を考察する。②パークレイ報告にみるコミュニティソーシャルワークの概念を整理し、論述する。(6月)

第2回レポート課題

テキスト「地域福祉援助をつかむ」を熟読し、①地域を基盤としたソーシャルワーク実践におけるコミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの共通点、相違点を考察する。②コミュニティソーシャルワークを実践するための重要な視点や機能を論述する。(9月)

第3回レポート課題

テキスト「コミュニティソーシャルワークの理論と実践」を熟読し、①コミュニティソーシャルワークの理論化の動向と展開方法を要約する。②地域福祉推進とコミュニティソーシャルワークとの関連性をまとめ、今後の課題を論述する。(11月)

テキスト

1. 小田兼三 (2002) 「コミュニティケアの社会福祉学-イギリスと日本の地域福祉-」 勁草書房
2. 岩間伸之・原田正樹 (2016) 「地域福祉援助をつかむ」 有斐閣
3. 中島修・菱沼幹男 (2016) 「コミュニティソーシャルワークの理論と実践」 中央法規

参考書・参考資料等

1. 小田兼三 (1997) 「現代イギリス社会福祉研究」 川島書店
2. 原田正樹 (2014) 「地域福祉の基盤づくり」 中央法規
3. 大橋謙策・田中英樹・宮城孝 (2008) 「コミュニティソーシャルワークの理論」 日本地域福祉研究所
4. 宮城孝・菱沼 幹男・大橋謙策 (2019) 「コミュニティソーシャルワークの新たな展開: 理論と先進事例」 日本地域福祉研究所

*他ソーシャルワーク実践、地域福祉に関わる文献は多数あるため、テーマに応じて活用すること

学生に対する評価

3回のレポート成績 60%と科目修了試験成績 40%で判断し、総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	小川 芳徳	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

福祉社会の実現に向けた研究テーマを設定し、テーマに沿った測定・調査・試験等を行うことにより新たな知見を提示し、これを論理的手順により整理・解釈することを目指します。さらに、それらの結果から得られた成績を具体的な実践へと展開することを目指します。論文の執筆にあたっては、研究の背景、課題設定、調査法、それらの結果、そして考察等の一連の過程について順を追って確認します。

到達目標 (SBOs)

- ① 問題となる背景を理解し、説明できる。
- ② 研究テーマを設定できる。
- ③ 研究テーマを解決するための方法を理解し、説明できる。
- ④ 得られた結果をまとめ、整理することができる。
- ⑤ 結果を的確に提示・表現することができる。
- ⑥ 結果について論理的に考察することができる。
- ⑦ ①から⑥について、正確に記述できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

研究テーマに即した研究背景を確認し、研究課題の目的や方法などの基本的構成について、また、その妥当性について取り組む。(①～③)

1. 研究の背景となる分野について先行研究を調べ、整理する。
2. 1.の作業から課題を導き出す。
3. 課題を解決するための方法を決める。

2年次

各自の研究テーマに沿ったデータ収集と解析、そして論文の作成を行う。(④⑤⑥⑦)

1. データの収集
2. データの解析・考察
3. 論文の作成

テキスト

参考書・参考資料等

研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

到達目標の達成度を総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	加藤 謙介	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

「人と動物の関係」に関する諸領域をフィールドとし、主としてグループ・ダイナミクス (社会心理学) の観点から研究を行い、修士論文を作成してその成果を報告する。研究を行うに当たっては、国内外の論文も含めたレビュー研究を行う。

到達目標 (SBOs)

1. 「人と動物の関係」の諸領域並びに研究について理解する。
2. 心理学研究法、及び心理学論文の書き方について理解する。
3. 国内外の論文を参考文献として引用することができる。
4. 「人と動物の関係」に関連する研究を行い論文を作成する
5. 自分の研究に関する適切なプレゼンテーションができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 「人と動物の関係」に関する研究テーマを設定し、国内外の先行研究を考察する。
2. 先行研究に関するレビュー論文をまとめる。
3. 研究計画を設定する。

2年次

1. 研究計画に沿って実験、調査等でデータの収集を行う。
2. 修士論文を作成する。
3. 研究結果のプレゼンテーションを行う。

テキスト

研究テーマに即して、指導を通して紹介する。

参考書・参考資料等

1. 杉万俊夫 (2013). グループ・ダイナミクス入門：組織と地域を変える実践学 世界思想社
2. 谷田 創・木場有紀 (2014). 保育者と教師のための動物介在教育入門 岩波書店
3. 桜井富士朗・長田久雄 (2003). 「人と動物の関係」の学び方：
ヒューマン・アニマル・ボンド研究って何だろう インターズー

学生に対する評価

研究論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	川崎 順子	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉関連領域への問題認識を明確にし、先行研究・文献探索を通して、討議する。そこから、研究テーマの設定を検討し、研究の手順や適切な方法を用いて研究することができることを目指す。その研究成果を修士論文として論述し、完成させることを目標とする。

到達目標 (SBOs)

1. 問題認識を明確にし、その背景について説明することができる。
2. 研究テーマとするポイントを整理し、研究計画書を作成することができる。
3. 研究目的に則した研究方法を理解し、研究を計画的に進めることができる。
4. 得られた結果をまとめ、考察することができる。
5. 結果について論述し、論理的に説明することができる。
6. 研究成果として論文にまとめることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

研究テーマに則した研究背景や目的を明確にするために、先行研究や文献探索を行い、研究到達状況を理解したうえで、研究テーマの意義を見出し、研究計画書を作成する。そのために、研究計画書の立て方や具体的な研究方法の手順などを理解し、研究に着手する。(1～3)

2年次

1年次の成果を踏まえ、研究計画書に基づいた研究を着実に進める。研究で得られたデータの分析や新たな知見を考察し、修士論文として完成させる。研究成果のまとめとして、プレゼンテーションを行う。(3～6)

テキスト

特に指定しない。必要に応じて関連する先行研究や図書を紹介する。

参考書・参考資料等

研究の進捗状況により提示する。

学生に対する評価

研究への熱意、取り組み姿勢、発表・修士論文の内容等を考慮し、総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	兒玉 修	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

社会のなかで互いに自立した市民として生きていくために必要とされる資質・能力とは何であり、それらを育てていくための教育や学びの在り方はどうあればよいか、を中心に考察する。但し、できる限り院生の問題関心に合わせて指導を行う。ここで言う「教育」の領域は学校教育に限定されない。研究テーマとしては下記のような事例が考えられる。

- 1) 市民性教育・主権者教育：市民として社会や他者とどうかかわっていくべきか、自己と社会との関係はどのように捉えられるべきか、社会や他者に対して個人はどのような責任を引き受けるべきか、等。
- 2) 持続可能な開発のための教育 (ESD)：環境、貧困、人権、開発といった様々な現代社会の課題を自らの問題として捉え、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すための教育はどうあるべきか、等。
- 3) 学習意欲の捉え直しと教育：何かを知りたいという知的好奇心だけではなく、社会とのかかわりのなかで作られる様々な学習意欲に対応できる教育とはどのような教育 (学び) であるべきか、等。
- 4) 教育のなかでの対話・議論：望ましい行動や望ましい社会の在り方について異なる意見を持つ者どうしが、お互いを成長させるためには、どのように対話 (議論) するべきか、等。

到達目標 (SBOs)

- ・各自の問題意識を明晰化・緻密化できる。
- ・先行研究のレビューによって自らの研究の意義を明確にできる。
- ・問題意識を修士論文として現実化するための研究計画を構想できる。
- ・研究計画に沿って問題意識を修士論文として現実化できる。
- ・望ましい教育や学びの在り方を、社会の在り方やそのなかで生きる市民の在り方と関連づけて考察できる。
- ・学習者を現在及び将来の市民として、そして常に異質な他者と協働する存在として捉えることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- ・問題意識を明晰化・緻密化するために、各自のテーマに関連する諸文献を収集し、考察を深める。
- ・先行研究を収集し、自らの研究内容との異同を整理する。

2年次

- ・研究計画を立案し、問題意識に沿った考察を深める。
- ・研究計画に基づいて修士論文の章立 (構成) を構想し、具体化する。

テキスト

特に指定しない。受講生のテーマや問題意識に即して適宜文献を紹介する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。受講生のテーマや問題意識に即して適宜紹介する。

学生に対する評価

スクーリングの参加状況及び各種課題の提出状況、及び、各種課題の内容をもとに評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	清水 径子	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

社会福祉領域の中でも「高齢者の支援」や「障害者の支援」を主な研究領域とし、対象者の QOL 向上に関わる研究テーマを設定する。福祉実践の諸問題や対象者などに焦点を当て、先行研究や文献などで現状を理解し、研究テーマにあった調査等を行う。研究結果の分析、考察を行い、研究成果として修士論文を完成させることを目標とする。

到達目標 (SBOs)

1. 問題認識・研究課題を明確にし、その背景について説明することができる。
2. 研究テーマとするポイントを整理し、研究計画書を作成することができる。
3. 研究目的にそった研究方法を理解し、研究を計画的に進めることができる。
4. 研究倫理を学び、調査を行う際に調査対象者への倫理的配慮ができる。
5. 得られた結果をまとめ、考察することができる。
6. 結果について論述し、論理的に説明することができる。
7. 研究成果として論文をまとめることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

研究テーマや目的、研究方法などを明確にするため、テーマとするキーワードから文献検索を行う。いくつかの先行研究や文献を精読した上で、研究計画を作成する。研究計画書を作成するにあたり、テーマや目的に合った研究手法を理解した上で研究を進める。また、スクーリング時のテーマ発表及び研究計画発表では、研究の背景や目的、方法等の研究計画を説明できる。調査等を行う場合には、倫理的配慮を考慮する。(1～4)

2 年次

研究計画に基づき、研究を着実に進める。調査等で得られた結果を分析し、考察を深める。夏期のスクーリング時の中間発表では、途中経過を報告できる。最終的に研究成果をまとめ修士論文を完成させる。冬期スクーリング時には論文発表会において研究内容が報告できる。(4～7)

テキスト

- ・思考を鍛えるレポート・論文作成法 井下千以子 慶應義塾大学出版会
- ・別途、研究テーマに応じて紹介する。

参考書・参考資料等

特に指定しない。研究テーマに応じて関連する先行研究や図書を紹介する。

学生に対する評価

各種課題の提出状況及び各種課題の提出状況及び内容、発表会への取り組み姿勢、修士論文の内容等を考慮し、総合的に判断する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	正野 知基	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

QOL (生活の質) を向上させるための手段としてのレクリエーション, 身体活動・健康運動, スポーツの福祉分野における有用性について考察していくことを主たる研究領域とする。

1年次は, まず問題 (研究課題) の具体化と解決へ向けての研究手順・方法を学び, 理解する。次に研究目的を具体的・現実的なものとし, 修士論文としての意義とオリジナリティを確認 (先行研究を整理) する。そして研究の問題点及び限界を確認して研究計画を立案する。2年次は, 研究計画に沿って研究を実施し, 修士論文を作成する。これら一連の過程を通して, 修士論文作成のために必要な知識・技術を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 各自の持つ問題 (研究課題) の具体化と解決へ向けての研究手順・方法を理解し, 実行できる。
2. 研究目的を具体的・現実的なものとし, 修士論文としての意義とオリジナリティの確認ができる。
3. 研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画が立案できる。
4. 立案した研究計画に沿って研究が実施でき, 修士論文としてまとめることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 各自の持つ問題 (研究課題) の具体化へ向けた作業を行う。
2. 具体化した研究課題の解決へ向けての研究手順・方法を学び, 理解する。
3. 研究目的を具体的・現実的なものとし, 修士論文としての意義とオリジナリティを確認するために先行研究のレビューを行う。
4. 研究の問題点及び限界を確認し, 研究計画を立案する。

2年次

1. 立案した研究計画に沿って研究を実施する。
2. 実施した研究の結果に対して考察を加え, 修士論文としてまとめる。

テキスト

特に指定はしないが, 個々の研究テーマに関連した文献を必要に応じて紹介する。

参考書・参考資料等

必要に応じて随時紹介するが, 院生自らも積極的に文献検索・収集を行うこと。

学生に対する評価

研究課題の具体化ができているか, 解決へ向けての研究手順・方法を理解して実行できているか, 研究目的を具体的・現実的なものにできているか, 修士論文としての意義とオリジナリティの確認ができているか, 研究の問題点及び限界を確認して研究計画が立案できているか, 実施した研究の結果を修士論文としてまとめることができたかを, スクーリングへの参加の状況・取り組む姿勢も含めて総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	前田 直樹	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

科学的な心理学である行動理論、行動療法、行動分析に関する研究を行い、修士論文を作成してその成果を報告する。研究を行うに当たっては、国内の論文だけでなく、国外の論文も含めたレビュー研究を行う。

到達目標 (SBOs)

1. 行動理論、行動分析、行動療法とその研究について理解する。
2. 心理学研究法と心理学論文の書き方について理解する。
3. 国内の論文だけでなく海外の論文を参考文献として引用することができる。
4. 行動理論に関連する研究を行い論文を作成する
5. 自分の研究に関する適切なプレゼンテーションができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 行動理論、行動療法、行動分析に関する研究テーマを設定し、国内外の先行研究を考察する。
2. 先行研究に関するレビュー論文をまとめる。
3. 研究計画を設定する。

2年次

1. 研究計画に沿って実験、調査等でデータの収集を行う。
2. 修士論文を作成する。
3. 研究結果のプレゼンテーションを行う。

テキスト

宮下照子・免田賢：新行動療法入門，ナカニシヤ出版
 腹巻繁・島宗理：対人支援の行動分析学，ふくろう出版
 ジェームズメイザー：メイザーの学習と行動，二弊社

参考書・参考資料等

Nigel Blagg: School Phobia and Its Treatment, Croom Helm
 Richard D. Parsons: Thinking and Acting Like a Behavioral School Counselor, Corwin
 飯倉康郎：精神科臨床医おける行動療法，岩崎学術出版

学生に対する評価

研究論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	横山 裕	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

我が国における福祉思想を明らかにすべく、アルファベット文化ベースの福祉的価値観と対比すべく漢字文化における福祉的価値観に焦点をあてた研究を行い、修士論文を作成する。

到達目標 (SBOs)

1. 自己の問題意識を明確化できる。
2. 問題意識に基づいた文献・資料を渉猟し、読むことができる。
3. 問題意識をもとに修士論文を仕上げるための研究計画を構想し、実行できる。
4. 研究計画に基づいて修士論文を執筆できる。
5. 自己の研究に関する適切な発表ができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

1. 福祉思想を構成する諸概念について再確認を行う。
2. 1.で確認した諸概念に関する文献・資料を渉猟する。
3. 研究計画を作成する。

2 年次

1. 渉猟した文献・資料を読み、問題意識を言語化する。
2. 1.で言語化した問題意識を軸に修士論文を作成する。
3. 研究成果の発表を行う。

テキスト

- 『哲学・思想を今考える』魚住孝至著 NHK 出版 (ISBN978-4-595-31851-1)
『日本社会福祉思想史 (吉田久一著作集 1)』川島書店 (ISBN4-7610-0407-X)

参考書・参考資料等

- 『東洋思想と日本』谷中信一著 汲古書院 (ISBN978-4-7629-5075-9)
『語源から哲学がわかる事典』山口裕之著 日本実業出版社 (SBN978-4-534-05707-5)

学生に対する評価

研究論文の内容で評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
特別研究	渡邊 一平	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (GIO)

関心領域における過去の研究を理解することにより自己の問題意識を明確化した上で、研究という手法を用いて、自己の疑問を解決する方法論を実践できることが目標である。

そのために、社会福祉学特論Ⅴ（東洋介護福祉論）で学習した内容を基に、各自が設定した研究テーマについて、科学的手法を用いた研究が実施できる。

到達目標 (SBOs)

1. 研究論文の概念および基本的な作成方法について学習し、理解できる。
2. インターネット、図書館などを使用した文献検索など、研究に必要な情報収集ができる。
3. 集めた関連文献より研究目的の設置および目的を達成するために最適な研究方法を選択・実行できる。
4. データの処理方法について学習し、実行できる。
5. 上記の学習内容を基盤として、修士論文が作成できる。
6. プレゼンテーション手法について学習し、実際にスライドを使用したプレゼンテーションができる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

1. テーマに関連する文献検索：各自の関心事項をキーワードで提示する。それらのキーワードに関連する先行研究について文献を収集し、その領域において行われた研究内容を把握することにより、現在明らかにされていない点を整理し、各自が行う研究テーマを明確にする。
2. 各自が行う研究に必要な研究手法についての知識を習得する。

2年次

1. 予備研究を行い、各自が計画した方法の妥当性を検討する。
2. 1～3によって得られた知識を基に、各自の研究を実施し、修士論文を作成する。

テキスト

各院生の研究テーマに従って随時紹介する。

参考書・参考資料等

各院生の研究テーマに従って随時紹介する。

学生に対する評価

スクーリングの参加、提出物の内容等を考慮し、総合的に評価する。